

様式(10)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 号 乙 保	氏 名	小林 秋恵
審査委員	主 査 谷岡 哲也 副 査 葉久 真理 副 査 岩本 里織		

題 目

Factors associated with changes over time in medication-taking behavior up to 12 months after initial mild cerebral infarction onset
(初発軽症脳梗塞患者における発症 12 ヶ月後までの服薬行動の経時的変化と関連要因)

著 者

Akie Kobayashi, Ayako Tamura, Takako Ichihara, Takako Minagawa

2017年2月発行 The Journal of Medical Investigation, Vol. 64, No. 1, 2, に掲載予定

要 旨

脳梗塞の再発率は、発症後 10 年で 50% と非常に高く、脳卒中治療ガイドラインにおいて危険因子の管理と抗血栓薬の服用が推奨されている。再発予防のための抗血栓薬は、一生服薬を継続しなければならない。しかし、様々な理由で患者は継続して服薬を続けることを困難なことが多い。医療者側の問題として、再発予防のための説明・指導が不十分なことも指摘されている。そこで、抗血栓薬を内服している初発軽症脳梗塞患者における発症 12 か月後までの服薬継続の経時的変化と関連要因を明らかにすることを目的に、服薬遵守、認識、健康行動コントロール感について信頼性と妥当性が検証された複数の質問紙を用いて調査を行った。脳梗塞発症後の入院中に研究同意が得られ、かつ初回のデータ収集ができた 51 名のうち、発症 12 か月後までの 4 時点の継続したデータ収集を行うことができた 31 名 (60.8%) を分析対象者とした。服薬遵守の経時的変化に基づくクラスター分析で、服薬遵守について高値維持群と低値維持群があること、また、発作間もない入院期間の服薬遵守高値維持群は、健康行動コントロール感において、低値維持群に比べ、有意に健康は運や偶然に左右されると認識していることを明らかにした。

以上の内容は、初発脳梗塞患者の服薬遵守や服薬継続指導に有用であり、今後の脳卒中患者の再発予防と生活の質の向上に寄与することが期待でき、その社会的意義は大きく博士の学位授与に値すると判定した。